

風の輪

巻頭言

認定こども園について

(社福)水仙福祉会

理事長 松村 寛

第三の子どもの施設

平成19年度に誕生へ

いま、「認定こども園」の問題がにわかに出現し、保育界を賑わしている。これは保育園でもなく、幼稚園でもない、新たな第三の子どもの施設である。最初から新設してもよいが、実際は、既存の幼稚園に保育的機能を持たせるか、また既存の保育園に幼稚園的機能を持たせるかをし、それを認定こども園にしようというものである。

さて、日本の幼児施設は明治の時代に、幼稚園は富裕家庭の子女の教育施設として出発し、片や保育園は農村の農繁期の季節託児所、都市のスラム街におけるセツルメントとしての託児所、戦争遂行のための戦時託児所等が基盤となつて、戦後は婦人労働を支えるものとして今の保育園に発展してきた。

したがって、保育園と幼稚園は、目的も性格も異質なものとして存在してきたのである。しかし、この二元化の形は、日本の子どもの側からみると望ましいものではないの

ののなら、幼稚園に保育的機能を持たせればよいのではないかというものである。幼稚園を所管している文部科学省が、嫌がる厚生労働省を強引に説き伏せたということのようだ。端的に言えば、幼稚園の救済策である。